

熱性けいれん

☆薬の使い方

主に2種類の座薬が処方されます

ダイアップ座薬：けいれん止め

8～12時間間隔で2回使ってください。

使いすぎると眠気、ふらつきなどの副作用が強くなるので、これ以上は使わないで下さい。

ただし、けいれん予防の薬を使ったのに、再度ひきつけた場合は必ずすみやかに医療機関を受診してください。

アンヒバ座薬（アセトアミノフェン）：熱さまし

熱が38.5℃以上の時、6時間あけて使ってください。

けいれん止めの座薬と熱さましの座薬を両方使うときは、けいれん止めの座薬を先に入れ、30分以上経ってから熱さましを使って下さい。

※座薬を入れて5分くらいで、便といっしょに座薬がでてしまった場合は、ほとんど吸収されていないと考えられますので、再度挿入してもよいです。

☆ひきつけたときはどうするか

- | | |
|-----------------|---|
| ① あわてない | ひきつけは多くは数分で止まります。 |
| ② 何もするな | 口の中に指や箸を入れない |
| ③ 楽な姿勢で | 体を横におかせ、服をゆるめる。 |
| ④ <u>吐くと危ない</u> | <u>吐きそうなしぐさをしたら、体ごと横にして、吐いたものがのどにつまらないようにする。</u> |
| ⑤ じっと見る | 時計を見て、何分続いているか確かめる。けいれんの様子をよく見て、あとで先生に詳しく伝えられるように。 |
| ⑥ 受診する | 5分続いているなら、救急車を呼んでください。1、2分で止まって意識が戻っているようなら自家用車での受診も可能です。 |

裏面に続く

もし今後ひきつけを起こした場合の診療所や病院の受診について

ひきつけをしたのが真夜中以外の場合 → **診療所や病院を受診してください。**

- ・ けいれんが5分以上続くときや、けいれんが5分以内におさまったが意識が回復していないとき
 - 緊急性がありそうです。救急車での救急病院受診をお考えください。
- ・ けいれんが5分以内におさまり、意識の回復もいいとき
 - 数時間の猶予はありそうです。
 - 平日の昼間
 - ◇ 当院（休診の際は他の小児科診療所）または救急病院を受診してください。
 - 土曜日の午後
 - ◇ 空いている小児科診療所または救急病院を受診してください。
 - 日・祝日
 - ◇ 急病診療所または救急病院などを受診してください。
 - 平日の夜 22 時頃まで
 - ◇ 急病診療所または救急病院などを受診してください。

真夜中にひきつけを起こした場合

時間外でも（場合によっては深夜でも）必ず受診しないといけない場合は以下のときです。

- ・ けいれんが5分以上続くとき
 - 緊急性がありそうです。また熱性痙攣以外の原因の可能性も否定できません。
- ・ けいれんは5分以内におさまったが、意識の回復が悪く本人と意思疎通できないとき
 - 緊急性がありそうです。保護者からみてけいれんがおさまったと思っても、実はけいれんが続いていることもあります。
- ・ けいれんが5分以内におさまり意識も回復したが、一晩で2回ひきつけをした場合や、ダイアップで予防したにもかかわらずひきつけをおこした場合
 - 緊急性が疑われます。また熱性けいれん以外の原因でひきつけをしている可能性も否定できません。

以上に該当しない場合、朝までご自宅で様子を見ることは可能です。

Q：夜中に子どもが1分ほどのひきつけをおこしたあと、意識は完全に戻って普通通りの意思疎通もできました。その後眠ったのですが、意識が悪いのではないかと思い起こしても起きません。大丈夫でしょうか？

A：ぐっすり眠っていて、起こしても起きない子どもと意識障害の区別をつけることは難しいです。迷ったら時間外でも病院を受診してください。ひきつけの後に意思疎通がちゃんととれた後にぐっすり眠ったのであれば、2～3時間くらい様子を見てからもう一度起こしてみても判断するのも一法です。

平成 23 年 4 月 5 日 さかたこどもクリニック 院長 改訂